

令和 4 年 1 1 月 2 2 日

公益社団法人岡山県柔道整復師会
理事会

公益社団法人柔道整復師会
柔道部長 三村 真輝

日整全国少年柔道大会・日整全国少年柔道形競技会について

表題の件につき、下記の通り、ご報告いたします。

記

1. 参加会員

山崎邦生会長、三村真輝柔道部長
坪井俊廣監事（代表監督）、藤原靖真会員（形監督）

2. 日時・場所

令和 4 年 1 1 月 2 0 日（日）（1 9 日移動日）
東京（講道館）

3. 結果概要

団体戦は、初戦で昨年三位の三重県と対戦し、1 - 2 で初戦敗退となりました。（三重県優勝）
形競技は、昨年同じく準優勝となりました。

4. 試合内容

初戦、皆緊張して硬かったですが、坪井先生の明るく優しい声掛けで、いい表情で試合に挑めました。主将の水谷選手、そして大将の村上選手を控え、挑んだ初戦。

松平順成選手の素晴らしい組手と反応の速さで相手を翻弄。大会優秀選手となった相手に指導 1 差で追い込みました。最後の最後に引き付けられてしまい投げられはしましたが、立派に先鋒の役割を果たしてくれました。

続く次鋒の大浦二千翔選手。組手に優る相手になかなか思うように技を出せませんでした。これまた大会優秀選手となった相手に引分。立派に次にリレー出来ました。

そして中堅、藤井太一選手。チームとしてはここを引分られると苦しい場面で投げて技有。そしてそのまま抑え込み！合わせ技一本！のはずがジュリーの指摘により解けたとなり優勢勝ち。それでも欲しかった勝ち星を一つ取りました。

内容リードで迎えた副将戦、水谷駿介選手。相手は女子とはいえ三重のポイントゲッター。組手と圧力の強い相手に苦戦するも指導で粘り、このまま凌げるか、という所でもうひとつ指導がきて悔しい僅差負け。

ここまで岡山県は技あり勝ち、三重県は一本勝ちと僅差勝ち。

一本勝ちしかない、逆に言えば一本勝ちならいける、という場面で、満を持して大将村上希桜丸選手。ヒリヒリするような組手争いから両者激しい技の打ち合い。場外指導を取り優勢に試合を進め、こぞ、という場面を作りましたが、無念の時間切れで引分。

かなりの大接戦でしたが、勝利の執念と、あと一つの負けない強さを示した三重県に、1 - 2と惜敗しました。

本当に皆よく頑張りました。素晴らしい力を発揮しました。

その後、ベスト4まで危なげなく勝ち上がった三重県。そこまでの勝ち上がりで一番苦戦したのは対岡山県だったと思います。

三重県はそのまま、宮崎県、長崎県を破り優勝。

優勝したチームと対戦し、遜色ない戦いを見せてくれた、今年の岡山県代表チーム。

6月の岡山柔整杯ではしのぎを削り、10月の強化練習会でチームとして戦う経験を積み、11月の今日は最高のチームとして全国大会で躍進してくれました。

結果は望んだものではなかったかもしれませんが、本当に素晴らしいチームでした。

そして、悲願の日本一を目指した形の西大寺武道館。

藤原監督、小西怜菜選手、坂井明莉選手。恐らくこれ以上無いくらいに稽古を積んで来られたことと思います。

それが現れた予選。奈良県は強豪でしたが、苦しい一番演武の中、見事に予選突破。

そして迎えた決勝。運命の演武順は4組中3番手。緊張の中、これまで見てきた中で最高の演武でした。が、結果は無念の去年同様の二位。

立派な結果でしたが、本当に悔しかったと思います。それでも本当に素晴らしい二位でした。

少なくとも、僕の採点では間違いなく日本一の演武をしたペアでした。

5. 感想

6月の岡山柔整杯のあと、チームとしての強化練習は一度のみでしたが、10月の強化練習会では、実際に団体戦を繰り返し経験する事が出来、チームとしてお互いがお互いを認め合い、しっかり声を掛け合えるチームになっていたと感じた。また形は昨年以上の仕上がりではあったので、十分に力を発揮しての結果だと感じた。

5. 課題

やはり団体戦なので、チームとしての結束力の強さを感じるチームは、選抜チームとはいえ強さを感じた。可能であればまた強化練習会で団体戦を経験する等、5人で練習する機会を設けたい。

形については、今年の西大寺ペアは卒業するので、次の世代の育成が急務である。

以上

